



「熱中症予防対策」

今年も全国的に気温の高い傾向が続き、今後も猛暑日が予想されます。熱中症は、炎天下だけでなく、室内でも、夜間にも発症してしまう恐れがあります。熱中症は予防が大切です！今回の熱中症予防対策記事をご参考にくれぐれもご留意ください。

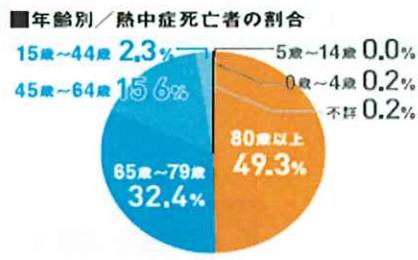
熱中症に関する大切なこと

！シニアは特に注意が必要です。

① 热中症による死者数は真夏日(30°C)から増加

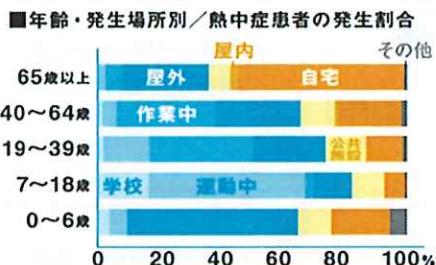
35°C以上の猛暑日は特に注意！！

② 热中症による死者者の約8割が高齢者



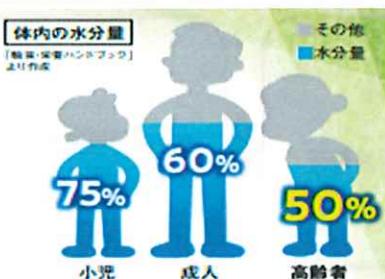
出典：「熱中症による死亡数 人口動態統計2019年」厚生労働省

③ 高齢者の熱中症は、半数以上が自宅で発生



出典：「救急搬送データから見る熱中症患者の増加」国立環境研究所 2009年

④ 高齢者は、体内の水分が不足しがち
暑さに対する感覚機能や体の調整機能も低下



※心臓や腎臓の悪い方、持病をお持ちの方は、かかりつけの医療機関等にご相談ください。

熱中症予防行動のポイント

① 暑さを避けましょう！

- 涼しい服装、日傘や帽子
- 少しでも体温が悪くなったら、涼しい場所へ移動
- 涼しい室内に入れなければ、外でも日陰へ



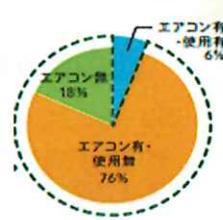
② エアコンを上手に使用しましょう！

また、エアコン使用中もこまめに換気しましょう。

屋内で死亡のうち約8割はエアコン使用せず

エアコン設置有無
・使用状況別

エアコン設置有
・使用無が
最も多い！



東京23区・熱中症死亡者状況（令和3年夏）出典：東京都監察医病院

③ のどが渇いていなくても、こまめに水分補給！

※持病の関係で、水分や塩分の制限がある方は、かかりつけ医療機関等にご相談ください。



④ 日頃から体調管理をしましょう！

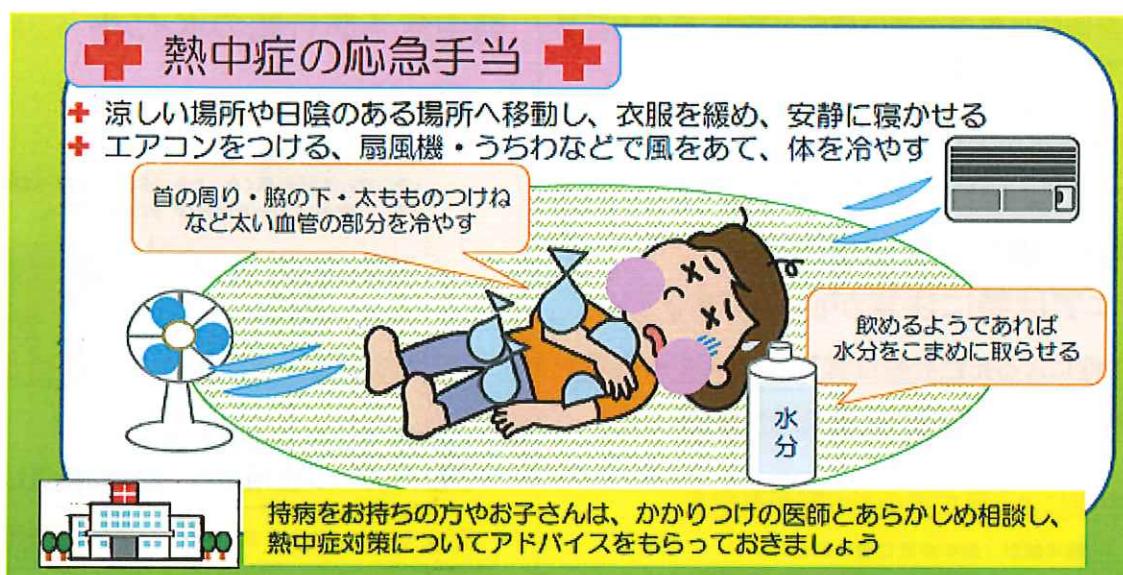
- 暑さに備え、暑くなり始めの時期から、無理のない範囲で運動（「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度）



- ・毎朝など、定時の体温測定と健康チェック
- ・体調が悪い時は、無理せず自宅で静養

熱中症の対処法

消防庁によると、令和4年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は、71,029人となっており、これは、平成20年の調査開始以降、3番目に多い搬送人員でした。また、前年度同期間の救急搬送人員47,877人と比べると23,152人増となりました。ここでは、万一、熱中症を発症したときの対処法などについてご案内します。



熱中症の分類と対処方法



出典：総務省・消防庁「熱中症対策リーフレット」より